

事業実施状況 指定管理者 自己評価票（令和5年度）

施設名	国分寺市立 もとまち児童館・第一第二東元町学童保育所
指定管理者名	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団

※評価欄は、「5. 市の要求水準を大幅に上回っている」「4. 市の要求水準を上回っている」「3. 市の要求水準を満たしている」「2. 改善が必要である」「1. 抜本的見直しが必要である」のいずれかを記載すること。

指標	評価項目	評価	理由
画収 確性 支 適計	収支計画に基づき適正に執行されているか	3	毎月収支計画を確認しながら執行している。
	協定等に基づき業務が実施されているか	4	コロナ感染症の5類移行に伴い、今年度は引き続き感染対策を講じながらも内容をより深く掘り下げ、利用者が楽しめるような行事を企画、実施した。
業 務 の 履 行 状 況 の 評 価	開館予定日数・開館時間は守られているか	4	規定どおり守っている。令和5年度は前年度に引き続き、児童館・第一第二東元町学童保育所の利用者親子や職員同士の関係性を深めるために日曜日に開館し、行事を行った。
	業務遂行に必要な従業員数が確保され、執行体制が明確になっているか	3	毎月シフトを作成し、障がい児の子どもの登所に合わせて必要な職員数を確保したり、前日に翌日の従業員数を確認している。感染症対策として行った分散保育を引き続き取り入れ、狭隘状況下、子どもたちの活動範囲の確保を図っている。職員間で連携を図り、利用数や活動場所に即した人員の配置や活動場所の確保をするなど柔軟に対応した。
	管理運営に必要な有資格者(防火管理者等)が確保されているか	3	防火管理者について常に施設にいる現場の職員が資格を取得し配置した。また、放課後児童支援員の資格も順次取得している。
	書類は適正に保管され、必要な報告を市に行っているか	3	書類は種類ごとに分類し個人情報などは鍵のかかる書庫でファイルに保存している。また毎月市への事業報告を行っている。
	施設全体が清潔に保たれているか	3	日々清掃や遊具の消毒、施設整備に努めた。児童館では今年度から始まったランドセル来館のために設置したロッカー周辺も利用者が不快にならぬよう管理・清掃を行った。学童児の個人ロッカーや空気清浄機、サーキュレーターなどについても消毒を行っている。掃除を行いながら施設点検や修繕の必要な部分が無いか確認している。更に、施設周辺の掃き掃除などを毎日行っている。
	法定点検や検査等は確実に実施しているか	3	定められた実施回数、実施月を守り確実に実施した。児童館においては、エレベーターの故障により、2月～3月にかけては点検以外に業者、メーカー、市と連絡をとりながら協議した。
サ ー ビ ス の 質 に 関 す る 評 価	利用者の満足度かどうか	4	児童館では、利用者協議会やアンケート、館内に設置したじどうかんノートで利用者の意見を聞き取り、意見を反映した行事を行った。また、途中経過のものに対してじどうかんノートによる回答を行った。学童では、日々の取り組みについて保護者から感謝の言葉をいただいている。今年度は行事を多く開催することができ、季節ごと壁面や環境設定を行い、明るい雰囲気を保つように努めた。
	利用者の声を施設の運営やサービスの向上に反映しているか	3	アンケートや連絡帳などで頂いたご意見は真摯に受け止め、職員間で共有し、改善策を考えサービスの向上に努めている。利用者の些細な声にも応えられるよう、話しやすい環境作りにも努めた。
	担当者のマナー、言葉づかい、服装等は適切であるか	3	職員のマナー向上のため、接遇研修で学んだことを情報共有し、職員会議や日々のミーティングで確認している。
	クレーム等に対して適切に対処しているか	3	運営に関して、日々職員間の情報共有を行い、利用者の目線に立って、客観的に物事を捉えられるように心掛けている。
	個人情報が適切に取り扱われているか	3	書類は鍵付きのロッカーにファイリングして保存している。パソコンは外部接続していない端末で管理し、持ち出せないように鍵をかけている。保護者とのやり取りや父母の会とのやり取りの中での個人情報も適切に取り扱っている。
	業務に必要な研修を実施しているか	3	業務に必要な研修を計画実施し、参加した。また、他市や近隣の大学の講座にも積極的に参加し、内容をファイルにまとめて、職員間で共有し、現場で活かすよう努めた。
	合理的配慮等、障害者への対応は適切であったか	3	在籍する全ての子どもたちが同様に活動に参加できるよう配慮している。職員会議やミーティングで児童の特性や成長に合わせて活動が出来るように情報共有をしている。活動の様子を保護者と共有し、必要に応じて各関係機関の方とも連携している。
施 設 水 の 準 特 の 性 評 に 価 じ た	自然災害等への対応	3	定期的避難訓練を実施し、いかなる時でも児童が行動できるよう指導した。急な予定の変更にも柔軟に対応し、利用者が混乱しないよう電話連絡や連絡帳のやり取りを密に行った。また、朝礼や昼礼のときには、職員間で緊急時の対応のシミュレーションを行い、危機管理への意識を高めた。
	学校及び地域等との連携による児童の育成支援への取組について	3	安全安心な保育スペース確保のため、学校と密に連携をとり、空き教室や校庭、体育館をお借りした。けん玉、読み聞かせ、マジックショー、共催の祭り、大学生イベントなどを実施し、多世代交流の場となった。地域の農家さんの協力を得て野菜の栽培と収穫を体験。様々な経験を通じ自然や人とふれあう機会となり、地域の中で児童の育成ができた。
	配慮を要する児童への対応について	3	特別な支援を必要とする児童に対しては、面談や送迎の時間などを活用し、より細かく児童の様子が伝え合えるよう努めた。それぞれの成長過程に合わせた声かけや支援をした。食物アレルギーのある児童に対しては、年度初めに面談をし、保護者とおやつ提供の仕方を一緒に考え対応した。毎日のおやつは複数人で原材料を確認し、別皿で提供するなどの配慮をしている。
指定管理者の自己評価			
総合評価		評価の理由等	
3	市の要求水準を満たしている	児童館・学童ともに、利用者の安心・安全を保てるような活動を行ってきた。児童館利用が多世代利用が増えていくなか、職員間で利用者の意見や要望に沿って、出来る範囲で取り組むことが出来た。学童でも、利用者や地域、各種関係機関と連携を取りながら児童一人一人への丁寧な対応に繋がってきた。	
		評価者氏名 : 重水 はづき	